

第20回記念大会

アメニティー フォーラム20

2016年2月5日(金)▶7日(日)
大津プリンスホテル

♥アメニティーフォーラムに、初めて参加したのは7年前のことだ。大津プリンスホテルに入った時の衝撃は今でも忘れない。福祉の研修とは到底思えないような豪華な会場と、普段は福祉の現場で働いているとは思えないフォーラム運営スタッフのおもてなし。日を跨いでびっしり組まれているセッションを貪るように聴いて部屋に戻ると、何とも言えない高揚感から眠りにつけなかったことを覚えている。夢のような3日間を過ごした後、ぼくは味わった感動を現場のスタッフに必死になって伝えた。それが伝染して、なんだか現場が明るくなった気がした。

♣20年間、高揚感と緊張感とともにプログラムを作り続けてきた。自分なりに時流や情勢を汲んできたつもりだけど、本当にこの内容で人は集まるのか？という不安との闘いでもあった。5人しか参加しないという夢を見るのも毎年恒例となった。今年、アメニティーフォーラムは20回の記念大会を迎える。このフォーラムの特徴は、動員が全くないということだ。主催者の私たちは、1万枚程のチラシを郵送し、じっとFAXの前で待つだけである。リピーターと口コミによる新規の人たちから、一人また一人と参加の申し込みが寄せられ、今では1500名近い人たちが集う会になった。

♥ どうして、そんな手法で20回も続いてきたのか。第1回を知らない僕は、聞いた話でしかそれを辿る事が出来ない。先輩たちがまだ若かりし頃に、お互いの実践をぶつけ合い、厚生労働省を始めた行政の人たちをその議論に巻き込み、夜を明かしてきたと聞く。そのうちに政治家の人たちもこうした議論に加わるようになり、数々の法律がこの場の議論から生まれたという。「障害者差別解消法」の最終調整が、このフォーラムで行われたシーンは、ほくも目の当たりにした。

♣なぜ続けてこられたんだろうとよく考える。間違いないのは、とにかく明るく楽しいコミュニケーションを続けてきたことが、原動力となっているということだ。少なくとも、お互いの違いを学ぼうとする精神的な余裕、その違いを語る言葉、この二つがフォーラムで磨かれていったように思う。この不思議な雰囲気が口コミで拡がり、めでたく20回目を迎えることにまでつながったのだろう。

♥アメニティースタイルは20回目を迎える。何を言われようとも、どんな風にさらされようともここまで続けてきた先輩方に心から敬意を表したい。そしてこの20年間で終わりなのか、ここからがスタートなのか。参加者のみなさんと一緒に議論していきたい。

♣アメニティーフォーラム最大の悩みは、いつ止めるかである。20回という切りが良いところで止めるのか、それとも若い世代にバトンタッチし、新しいスタートを切ってもらうのか。今回、参加して頂くみなさんとともに、その覚悟を決めることができたらと思う。

♥今年もいつものように、楽しいプログラムが作り上げられました。真面目にシンポジウムを聴くのはもちろん、誰かとの再会を楽しみにしたり、映画をずっと観たり、アール・ブリュット作品と対峙したり、芸能人や映画監督をターゲットにするのだって良いのではないのでしょうか。

♣日本一、選択肢に溢れたアメニティーフォーラムの準備が整いました。今年は若い連中に運営を頑張らせてみようかと張り切っていますので、どうぞ宜しくお願い致します。皆様のご参加を、冬の琵琶湖とともに心よりお待ちしております。

♣:これまでずっとやってきた人 ♥:これから引き継ぐかも知れない人